

令和7年度第1回竹田市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和8年2月25日（水）午前9時00分から
- 2 開催場所 竹田市役所2階庁議室
- 3 出席者
総務課長（市長代理） 後藤いずみ
教育長 志賀 哲哉
教育委員 岡 茂樹
教育委員 佐藤 健吾
教育委員（教育長職務代理者） 進 みづほ
教育委員 吉野 聖子
- 4 本会議に説明のため出席した者の職・氏名
教育総務課長 廣瀬 恵三
学校教育課長 渡部 公比古
生涯学習課長 橋本 一彦
まちづくり文化財課長兼歴史文化館長 佐藤 俊郎
竹田中央学校給食共同調理場長 後藤 誠郎
社会福祉課長 羽田野 京子
事務局員 総務課課長補佐 野仲 康弘
教育総務課課長補佐 古澤 邦利
- 5 議事日程
 1. 開 会
 2. あいさつ 教育長
総務課長（市長代理）
 3. 協議事項
(1) 竹田市長期総合教育計画の策定について
 4. 報告事項
(1) 竹田市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
(2) 竹田市教育保育施設の変更について
(3) 竹田市出生数の推移について
(4) パパ・ママ会議での要望等について
 5. その他
 6. 閉 会

[開会時刻:午前9時02分]

廣瀬教育総務課長

皆さんおはようございます。
定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第1回竹田市総合教育会議を開催したいと思います。
次第に従いまして2番のあいさつですが、本日急遽、市長が欠席ということでありまして。
教育長の方からご挨拶をお願いします。

志賀教育長

皆さんおはようございます。
市長がちょっと急なことで出られず申しわけないです。
まず最初に、竹田市が住みたい田舎ランキングで上位に入っているというニュースがあります。詳しいランキングはまだ言えませんが、結構な上位に入っていますので、非常に嬉しいことだと思っています。
校長会議で言ったことがあるのですが、夢は、というか大きな目標についての話です。選挙で竹田市の投票率というのは他市とそんなに変わらないんですけども、どうしても20代30代は投票率が低い傾向があります。3割程度だったかな。これを、今の中学生が選挙権を得るようなころには、100%になるといいなと思っています。30%が50%になってもあまり変わり映えしないのですが、今のうちに正しい教育をして、そして本当に100%ぐらい投票するような、そういうまちになればいいなと思っています。
ところで令和8年度から12年度の長期総合教育計画が、形になりつつあります。
その中で「はじめに」というところは思いを込めて書いたのですが、竹田の21の用水群が世界かんがい施設遺産に登録されたという飛躍の年で、歴史を学び、思いを継承し、そして新たな歴史を創っていかなければならないという内容です。
そのような、竹田にとって明るい、非常にいいニュースもありましたけれども、昨今大きな社会問題になっていますのが、今朝のニュース、大分県の高校、どこの高校かわかりませんが、コンビニで騒いでいる動画が拡散されています。特定なんかも始まっているんじゃないかというふうに思っています。
竹田市の教育推進大綱の基本理念というのが、「他者とともにある かけがえのない わたし」となっています。
こういったことを大事にして、そういう心の荒れというか、問題になるような行動をしないような、そして住みたいと思えるような市にしたいと思っています。
最後に教育は、「15年先を見据えた未来への投資」と言われております。
竹田市の命運もそこにかかっているのではないかなというふうに思っています。
子どもたちが仲間と切磋琢磨しながら学校で主体的に学び、市民が健康的に超スマート社会をたくましく生きていく、そういう未来を創っていききたいというふうに思っています。肯定的で持続可能な竹田市を創造する。そのための皆様の協力をお願いして挨拶とします。どうぞよろしくお願いいたします。

後藤総務課長

皆さんおはようございます。
本日、市長が急遽都合により欠席ということで、ピンチヒッターになりました。

この会議には、前回は社会福祉課の課長という立場で入りましたが、今回は総務課長という立場で入らせていただきました。

教育部門と行政の部門と一緒に、より竹田市に合った教育行政を進めていくということをしっかり念頭に置きながら、今日のこの会議で貴重ないろんな意見を出していただけたらと思っております。

先日、私もあの世界かんがい遺産イロイロカタローの発表をケーブルテレビで拝見いたしました。

授業で学ぶというよりも、地域に根づいた文化や活動をしっかり生徒さんたちが学んで、自分の中に落とし込み、自分の言葉で発表しているというところにすごく感銘を受けました。

こういった活動が、先ほど教育長が言われました、住みたい田舎ランキングの上位に、繋がっていけばいいのかなと思っております。

市民が竹田市に持つイメージと市外の方が竹田市に対して抱いているイメージがかけ離れていると感じることがあります。

そういった差を埋めていくためには、子どものころからの学びであるとか、親からの教えであるとか、色々なことが影響してくると思いますので、今日の会議がそういったところにも踏み込めて、よりよい竹田市づくりの1歩になればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

廣瀬教育総務課長

それでは竹田市総合教育会議設置要綱第5条第1項により、会議の議長は、市長が行うということですので、以降の進行を総務課長（市長代理）にお願いいたします。

後藤総務課長

はい。それではただいまから協議事項について協議を行いたいと思います。
1番、竹田市長期総合教育計画の策定について、事務局より提案をお願いいたします。

廣瀬教育総務課長

はい。
竹田市長期総合教育計画ということで協議事項に挙げさせていただいております。
長期総合教育計画につきましては、現在の竹田市長期総合教育計画が、令和7年度で計画期間を終了するというに伴いまして令和8年度から、向こう5年間の計画を策定するというので本年度進めてきたところでございます。
計画の内容につきましては、事前に市長にご説明、また教育委員の皆様にも事前に内容をご説明いたしまして、本日の会議に臨んでいただいております。
どの部分からでも構いませんので、今日は率直な意見交換という場ということでお願いをしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。
竹田市長期総合教育計画の策定につきましては委員の皆様も協議をしてきた内容ですので、大体状況は把握していると思いますが、ご意見・ご感想等ありましたら、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

佐藤委員

ちょっと感想的なことにはなると思うのですがけれども4ページです。子どもの幼児数、児童数、生徒数の推移が載っております。数字だけ見れば危機的状況といえますか、もう大変なことになるのではないかなというふうに思ってお

ります。それと人口の推移を見ましても、20年後にはもう1万1,000台ということで、本当に行政として、教育行政としても成り立つのかなという気がしております。

暫定の数字ではあるんですけども、こういう数字が出ていますので、もう5年計画と言わずに、本当に10年、15年、20年を見据えた教育計画が必要なんじゃないかなというふうに思っております。

それと、地元のことで大変恐縮ではあるんですけども、30ページです。

文化財の保存ということで、城原神社が出ているんですけども、携わっている身として、やはりこういう文化とか、遺産を、保存・維持管理していくのに多少、自分たちだけではちょっと賄えない部分がありまして、何とかこういうのも行政の中に取り組んでいただける面があればいいかなと思っております。

後藤総務課長

はい、ありがとうございます。今、2点ございました。

長期総合教育計画の中で5年と言わず、この少子化を見据えて、もうちょっと長い10年15年といった長期的な視点で計画を見据えたらどうかというご意見をいただきましたので、この点につきましてご意見いただければと思いますが。

志賀教育長

一昨日、郡市対抗駅伝に行ってきました。玖珠町と九重町の教育長も応援に来ていました。玖珠町は7中学を一気に1校に統合、九重町は4中学を同時に統合した経緯があります。

玖珠は、7つをいっぺんに統合しましたので、やはりそれなりに悩みはあるようで、ご存じの通り多様化学校をつくりました。その理由は、不登校が考えられないぐらい増えたからなんです。そういう話を玖珠町教育長とはよくしています。

今、佐藤委員が心配されたように、まちとして成り立つのかと、学校として体を成すのか、そういった悩みがもともとあったようで、様々な状況を考えつつ、先に進んでいかないといけないと思っています。

現在の出生数が50人を切っていますので、今竹田市の小中学生がちょうど1,000人ですね。1,000人というと、1校で1,000人という学校が県内にいくつもあります。1校に1,000人というのは、ちょっと大きすぎるんですけども。

早い話、竹田市は大規模校1校分の児童生徒数しかないという市になっていますので、それが学校の体を成す、市として存続する、そういったことも探りながら計画を策定していきたいというふうに思っています。

計画というか、長期的展望ですね。これは必要になるというように思っています。明確な答えではないんですけど、そういうことを十分考えていきたいと思えます。

後藤総務課長

ありがとうございます。

それからもう1点、文化財の今後への継承のところで、地元で関わる方も一生懸命頑張っているんですけども、やはりそれだけでは難しいところがあるというご意見いただきました。

まちづくり文化財課長何か、これに対してご意見ございますか。

佐藤まちづくり
文化財課長

はい。

城原神社に関しては、社殿は市指定有形文化財、社叢は市指定天然記念物、神楽が市指定無形民俗文化財、阿鹿野獅子が県指定無形民俗文化財となっています。

指定されているものについては、保存修理は、所有者の方がするものなんですけれども、それに対して、要件を満たせば、2分の1以内の補助の制度はありますので、また個別に相談いただければと思います。今の部分については城原だけではなくて、全体的なもので、ちなみに指定文化財は、249件ございます。以上です。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

神楽とかも、今後、担い手がなくなって消滅する可能性があるというところで、確か記録保存の取り組みも以前されていたかと思います。

なかなか人口減少にあらがえないところもあるんですけども、そういった取り組みをして、文化財行政を今進めているというところでございます。

他に、どなたかご意見ございませんか、はい。

岡委員

はい。

先ほど教育長がおっしゃった「教育は15年先の投資」ということは、本当にその通りだと思います。やっぱり子どもたちが竹田市で生活する中で、感動したり、喜びを見いだせることがとにかく大事だとつくづく思っていて、やはり自分が子どものころの良い思い出があれば、市外に出たとしても、ふるさとを本当に思う気持ちは育まれていると思います。だから今この瞬間が本当に大事だと感じています。

それから、長期総合教育計画について、5年前に立てられた時から今を眺めると、おそらく想像を超えたことが起こっているというか、例えばコロナにしても生成AIにしても想定外のことだったので、長期的な視点も必要ですがやはりその都度その都度、時代が変化する中で、変えるべきものは臨機応変に対応せざるをえないなと思っています。

統廃合の件について、そのメリットデメリットっていうのも一般論としてはもう語り尽くされている感があるんですけど、ここ1、2年、急激な時代変化を見て、やはり他者と交わる協働的な学びの環境を整える緊急性を強く感じています。というのが、今、デジタルコンテンツがすごく充実してきていて、1人で楽しむとか、1人でいることを選択する方がどんどん増えている気がしますし、AIが何でもやってくれる時代では、現にChatGPTに悩みを相談する子どもの風景というのも、ほぼ当たり前になりつつあります。大人自体もわずらわしい繋がりを避けてこういった世界に走るって、ひいては孤立化してしまうようなリスクもあると思っています。

だからこそ他者と出会う場としての学校の存在意義というのは、ますます重要だと思っていて、例えば中学校の場合、それぞれ別の小学校で学んだ子どもたちが中学校という場所で、新しい他者と出会い、そこで、協働的な学びと活動を通じて共鳴して、さらに自分の新たな可能性が発見できるっていうかそういう新しい他者と繋がる事から生まれる躍動感みたいなものが、今の時代ほど求められていることはないと思うし、中学校時代という一番多感な子どもたちに、早くその環境を作ってあげるべきだなと感じています。

それともう1点、今の子どもたちを支える観点から、運営協議会という存在の重要性をすごく感じていまして、市内の各運営協議会が温度差なく、同じ程度に主体性を持って、学校づくりに取り込める体制を作って欲しいと思います。

やはり年に数回でも協議会のメンバーや先生方が一同に会して研修や事例検討会を行うというのがいいと思います。

地域の人っておそらく教育現場のことは、ほぼわからないと思うんですよね。ですので、そういう場を共有し、充実させるということが、ひいては子どもたちの環境を支えるってことに繋がるかなというに思いました。

以上です。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

今、学校統廃合のところのご意見です。

中学校での新しい出会いで、いわゆる非認知能力であるとか、そういったところに、いい刺激を与える機会になっているところもあると思いますし、もう1つ、学校運営協議会の充実をしていく中で、この生徒数が減った学校を地域と一緒に支えて、学校の様子を知るところで、進めていけたらどうかというご意見だったかと思います。

まず初めに、学校統合に関連して、皆さんの中で、加えてご意見があったり、自分はこう思うとかであったりがあれば、お聞かせ願いたいと思いますがいかがですか。

進委員

はい。

自分のことになるのですが、荻町で子育てをしてきて、保育園から中学校までクラスがなく、ずっと同じメンバーでやってきて、いざ高校に上がるってなったときに、大人数の中でやっていけるのかなとかいう不安を抱えていたことを思い出したりしながら岡委員の話聞いていたんですが、本当に知っている人だけではなく、知らない人と出会って関係を作っていくっていうのは子どもたちの中でとっても本当に大切なこと、それから生きていくうえで、とても大切なことだと思うので、小学校中学校時代にそういうことができるといいなと思います。

統廃合ももちろんなのですが、交流などをうまくやっていたら、中学校同士、小学校同士とか、今繋がって授業とかもあるので、そういうところをまた充実させて、少しずつ他者と関わる機会を増やしていただけたらいいのかなというふうに思います。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

先ほどもタブレットとかAI、ChatGPT等で孤立化するというお話もありましたが、今、進委員のお話では、タブレットなどそういったものを使って、逆に他の人とも交流をして繋がっていくところのご意見もいただきました。

学校教育課長何かございますか。

渡部学校教育課長

はい、ありがとうございます。

もう、お二人のおっしゃられる通りだと思っています。

実質的には対面で、相手の表情を見ながら、行間を感じながらやるのが一番いいと思うんですけども、この統廃合についてはやはり、地域とのコンセ

ンサスも必要になってきますので、明日からすぐというわけにはいきませんが、進委員が言われたように、遠隔授業、それと子どもだけではなくて、教職員の数も減ってきておりますので、教職員も、隣接の学校同士で、合同の研修会をしたり、そういうことも自主的に行っている状況があります。

こういった中で、教育委員会としては、ICTの支援員さんも活用しながら、スムーズに遠隔授業が進むように交流事業が進むようにお手伝いしていきたいと思っております。

さらに、先ほどから出ている学校運営協議会、この活用についても、もっともっと学校運営の中に入れていただきたい。

今は、どうしても学校からお願いするという立場がまだ抜けきれていません。

実際に、ただ、もう対等の立場で子どもを育てていくという体制づくりに、どうすれば向かえるのか、しっかり各学校の校長とも話し合いながら進めていけたらなと思っております。以上です。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。
他に何かございますか。

志賀教育長

CSっていうか、学校運営協議会なのですが、1つモデルになるのが久住高原農業高校なんです。大分県内の高校で、学校運営協議会を最初に導入したうちの1つなんですけれども、あそこはやはり、他の高校のCS、学校運営協議会のモデルになっていて、農業に特化して頑張っています。

委員の皆さんが様々な意見を持ちながら、建設的に、こういうふうにしたらいいいんじゃないかとか、こういうイベントを持ちましょうよとか提案しながら、学校はそれにできる範囲で対応しています。印象的なのは、久住高原農業高校は今年、100%じゃないですけど、ほぼ定員を満たすんですよね。

今までは40人に対して10人台とか20人ちょっとという状況が続いていましたが、今年はまだほぼ満たす状況で、県下でも大分市内の進学校などは倍率が高いのですが、周辺の高校はどこも本当に苦労している中で、大検討だと思うんです。

それは校長の発信力というか、ガッツというかそういうのもあるんですけども、CSの力も非常に大きいというふうに思っています。

もうひとつ生徒が集まる理由は、やっぱり学校が活躍しているという実感があるからだと思うんです。

他者との出会いという話がありましたが、たくさんではありませんが、県外からも生徒募集するようになって、5名から10名弱ぐらいまで、県外から子どもが来る。そしていろんな刺激を受けて、全国のいろんなコンテストで優勝したり、入賞したりとか、支部で活躍したりとか、それから、国立大学に通るようになってきたりとかですね。そういう活躍もあって、いろんな個性がまじり合っていて、出会いもあって、本当に良い結果に繋がっていると思っています。

ひとつ印象的だったのが、その校長も今年で退職なんですけれども、今まで頑張ってきた校長先生がいなくなることで「大丈夫ですか」と保護者に言われたときに、「いや、学校運営協議会があるから大丈夫です」と答えたというんです。非常に印象的だったと同時に、そういうのは理想だな、というふうに思っています。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

高校と小学校中学校と、ちょっと立場は違うんですけども、大変前向きに取り組んでいる事例だなと思います。私も久住高原高校の運営協議会に入らせていただいて、お話を伺う限り、やはり生徒がやる気を持ってやっているのを、地域の農家の方が支えているであるとか、農家以外の外部の方も支えていただいている、そしてそれをうまく情報発信して、次につなげているっていうところも、ものすごく印象的に感じております。

やはり、先生方のお話であるとか発表の様子を見ると、地域に支えられているところが、重要なところという印象を私も持ちました。

それではその他、吉野委員にお願いいたします。

吉野委員

私は、強く感じているところが2つありまして、1つは皆さんのお話の中にもありましたけど、学校運営協議会とかコミュニティスクールに協力してくれる皆さんが時々、学校の詳しいことがよくわからない、あんまり見る機会が少ないというふうなことをおっしゃるんですけど、学校の方ではすごく工夫して授業公開ですとか、オープンにしてくださっているなっていうんですけど、やっぱり時間の都合が合わなかったりとか、また地域住民よりは保護者の方がそういう案内を受ける機会が多いかなと思うんですけども、それにしても、なんかそういう機会が多くなって欲しいというのが1つと、先日中学校で授業発表、学習成果発表をしたのを見に行っただけですけど、その時に参加されていた保護者ではない地域の方で、こういう勉強しているんだということを本当に何か感銘を受けてらっしゃる方がいて、こういう機会が多いといいのかなというのを感じたのと、また一方的に聞くだけではなくて、本当なんかもっとこう一緒にしたいっていう気持ちを何となく感じたんですけど、今もやっぱりコロナ以降、学校行事の見直しっていうのはすごく大事なことだと思います。

なくしてしまったもので、戻したほうがいいものがあるんじゃないかなというのが1つ。廃品回収とか、運動会のお昼ご飯を一緒に食べることとかそういう、大人と子どもが一緒に何かをする、汗をかくぐらい何かを一緒にするという機会が少し少ないかなというふうに思います。

体験する時間、それを共有する時間というのが、あんまりないのかなというふうに思っています。

それと、あとは私たち教育委員させてもらってから学校訪問に行く機会が、とても本当に自分のためにもなるし、いろんなことが知れて本当にありがたい機会だなと思うんですけども、これをたくさんの人にとというのはなかなか難しいんでしょうけど、同じぐらい見て欲しいな、知って欲しいなということは強く思ったので、何かこう、学校のことをもう少し知ってもらえるような機会がやっぱり要るのかなあと感じました。

それで、学校運営協議会とまた家庭の保護者が、より広い意味で教育に関心を深めてもらえたらなと思います。

地域の方の協力が必要だっていうのと協力するというのは違いがあるというふうに感じます。というのは、働き方改革っていう言葉が独り歩きして学校の先生はそんなに部活も見なくてよくなって、じゃあ空いた時間で何するんだとかいう声がいまだにたまに聞こえてくるんですけども、でも学校訪れるたびに先生方が本当に授業を工夫してくださっている、教育はやはり授業が勝負だって教育長もよくおっしゃっていますけど、先生方が限られた時間45分なり50分の中で、つけたい力を一生懸命、だからといって一方的に注ぎ込むわけ

でもなく、子どもたちと一緒に授業を作るために、いろんな取り組みを、試行錯誤の中で結果として力をつけていくためには、蓄積というか習慣づけて蓄積していかないといけないから、その振り返りのシステムだったり、キャリア教育ルーブリックとか、とにかく新しいものを構築してくれている。

どの先生も同じように取り組めるように、ルール作りをして仕組みづくりをしてきているんですけど、それをするためにやはり膨大な時間とエネルギーが要るだろうと、こういうことに先生方がエネルギーを費やしてくれるんだったら、やっぱり地域住民としても協力の甲斐があるなというふうに、私は感じますけど、それは学校を見る機会が多いからだなと思って、そこを感じて欲しいなというふうに思っています。

先生に授業と教育活動を頑張ってもらうために、地域は協力するんだっていうことが広まったらいいなと思います。

ちょっと長くなりますけどもう1つ、大きく感じているところは、竹田市で子育てをして私は本当によかったなって思っているんですけども、一番ありがたいなと思っているところの1つが幼児教育のあと、小学校とのかけ橋のところを一生懸命研究してくれているところなんですけれども。

でもその軌道に乗ったというかもう当たり前のように先生が取り組んでくださっているんですけど、ちょっと心配なのがやっぱり一生懸命になりすぎると、ちょっとずれて加速していったら嫌だなと思って、繰り返し思い出すようにしようと思うのですが、ICT活用が進んでくるので、小学校以前の未就学児のうちに、その広大な自然と寛容な人にたくさん触れて肌で感じることを、体に染み込ませて欲しいというか、それから1年生になって、タブレットを使った学習とクラスの子どもたちと肌を触れ合わせて学習するもののバランスがとれていくためには、やっぱり5歳の頃までに自然に触れて本物を見て欲しいなというふうなことを思っています。

そしてAIに相談する気持ちは私もわかるんですけど、その人たちも結局は、他者とうまくやりたいから、恥ずかしいことをAIに聞くわけでやっぱりどこかで人を求めるっていうことは、いつどんな時代になっても結局、人は人を求めると思うので、それはやはり小学校に上がるまでにたっぴりと時間を自然の中で過ごして欲しいなと、人と触れ合って過ごして欲しいなというふうに思います。以上です。

後藤総務課長

ありがとうございます。

今のかけ橋プログラムというワード1つ出てきたんですけども、現在の取り組みの状況を少しお願いできればと思います。

渡部学校教育課長

はい。ありがとうございます。

かけ橋プログラムについては、今は竹田幼稚園をモデル校として、もう3年間蓄積してきたことを、全幼児教育施設、保育所も含めて子ども園も含めて、全部にこれまでの取り組みを広めていって、共通の足並みで、子育てに臨んでもらっている状況です。

関係者については、随時会議を開きながら疑問点や今後の展開などを確認しながら行っているところです。

また、来年度に向けては、専門家についてもちょっと回数をふやしながら、現場の方に行ってもらおうということを考えております。

先ほどありました、遊びの中からってというのは、もうとっても大事なことで、先日、都野小の取り組みを、校長会議の中で発表してもらいました。

その中でも、やはり学習の土台を整えるためには、基礎の勉強をするのではなくて、その前に、遊びから自分の体や感覚を鍛えていくという土台がなければ、どんなに勉強させても伸びないというのを、2年から3年かけてデータを蓄積して、もう本当に、説得力のある話をしていただきました。

そうした中で、やはり、特に小学校低学年の遊び、体を動かすことの重要性ってというのは、皆さん認識できたのかなと思っております。

そういった意味で、先ほど働き方改革もありましたが、自分の目標としたら昼休みに子どもと遊べる先生をふやしたい。

自分自身も小学校のとき、先生から教わった勉強内容というのはほとんど覚えていません。昼休み遊んでくれた先生のはっきり覚えています。

そういった状況を今の子どもたちにもしっかり経験してもらいたい。

そのためには、昼休みも委員会活動や、何か報告書づくりでパソコンに向かうよりも、子どもと向き合う時間をぜひ作っていただけたらなと思っています。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

それともう1点、学校をまず地域の方知ってもらう、学校応援したいって思いを持ってくれる方こそ、学校の取り組みの中でうまく活用して欲しいというご意見もあったかと思いますが、先ほど少し世界かんがい遺産の話がありました。あれが本当にいい例なのかなと思います。

生徒さんたちが学習として地域に出かける、そこで地域のことを知っている方が、いろんなお話をしてくれるというのは、竹田市のいい取り組みなのではないかなと、私は感じています。学校の方でも、地域に情報を発信するとともに、地域の方を取り込んだ活動をうまく進めていただけたらと、お話を伺いながら思いました。教育長何かありますか。

志賀教育長

そうですね、やはり今学校によって発信力とか表現力とか、そっちの方が非常に求められているので、発信しないとイケないと思うんです。

皆さんの話を聞きながら思い出したのですが、久住中学校勤務のとき、グラウンドの入口のところに、生徒が待機する小屋みたいな建物あるんですけど、あそこは、「子どもを寒い中、押し込んでしまって、学校はなんてことをするんや」という意見をいただいたことがあります。押し込んだわけではなくて、あれは実は保護者、PTAの皆さんが自分たちで生徒のために作ってくれたものなんです。

PTAの善意で作ってくれたのですが、でも見る人、違う角度で見ると押し込めているみたいに見える。

そういうことをなかなか知ってもらう機会というのがないんですけども、やはり何かこう、いろいろ正しいことを知ってもらわないとイケません。その方も、PTAが思いやりで作ってくれたんですよと言えば、納得はするんですけども。

やっぱり知らないと、全然違うことになってしまうので、そういったことを何とかうまく、全員が100%学校のやっていることを理解することはできないと思いますが、できる限りのことはしていきたい、して欲しい、というふうになっています。

渡部学校教育課長

今教育長がおっしゃったように学校に表現力とか発信力を、今年1年も言い続けてきました。

そうした中で、大分県のプレゼンテーションコンテストや、ビブリオバトルなど、表現する場に多くの子どもたちが参加してくれました。

また先ほどあったような、学習発表会っていうのを、自分がこの立場になって全部を見回したときに、結構な学校でやっています。これをうまく使えないかなど。

どの学校もプレゼン関係をつくりながら発表していると思うんですが、昨日教育長とも話したんですけど、市が推進しようとしているプロモーション活動なんかは、子どもたちの力をちょっと入れることできないかなど。

そうすれば間違いなく家族、親戚は興味を持って見てくれるかなど。ご近所さんもかなどということで、内向きのプロモーションという言葉がありましたけど、そういうものにも繋がっていくのかなあと思っているのも、いろんなところで子どもが活躍する場面を作っていきたいなと思っています。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

方向性が見えたようですね。進委員をお願いします。

進委員

今、渡部課長の話を聞いて、先日、荻町の学校運営協議会に行ったんですけど、校長先生から、子どもたちは地域の方とか大人が来ることをすごく喜ぶ、もうすごく張り切るんだと。

昔は大人が来ると嫌がっていたのに、今の子は喜ぶっていう話をされてて、どんどん来てくださるっていうふうには運営協議会で言われたんですけども、なかなか行きたいなと思っても、来ましたっていうのが、敷居が高いというか少し行きづらいところがあるので、そうやってプロモーションとかで見せていただくと、行きやすくなるのかなっていうのは、今ちょっと感じました。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

そういった機会も今後、多く持っていただけるような取り組みができればと思いますので、よろしくをお願いします。

その他にご意見ございませんか。

岡委員

スクールバスについて定例会でもお話させていただいたのですが、スクールバスの年間維持費に1億超える予算をつけていただいて、保護者的にもすごく感謝をしているところです。

ただ実際、時々スクールバスとすれ違うときに子どもが1人とか2人とかの時がある。非常にきめ細かい対応で大変ありがたいんですけど、児童生徒数の減少もあって、効率的な資産運用のために早め早めの見直しが必要になってくるだろうと感じています。この間、学校教育課長からも、「車はあるけど運転手が確保できない、時間的にも難しいことが起きている」という話もいただいて、全庁的にスクールバスの数や稼働時間外の有効活用、その他ドライバーの雇用なんかを含めて、今後どういったことが検討されていくのかというところを聞きたいと思います。

隣の豊後大野市でも、スクールバスのコミュニティーバス利用など、いろいろ取り組みをされているようなんですけど、それぞれ市の独自の取り組みがあ

っていいと思うので、竹田市の取り組み予定について少し何かお話をいただければと思います。

後藤総務課長

はい、ありがとうございます。いかがですか。

渡部学校教育課長

教育委員会としましては今、タクシー協会に委託しておりますので、その部分を全市的にとなると、またその委託の形態とかも変わってくると思いますので、すぐにはっていうことにはならないと思います。他に言われたように他の自治体のいい運用の仕方も研究しながら、というお答えしか今はできないかなと思います。

後藤総務課長

はい、ありがとうございます。今後の課題ということでご検討をお願いします。他にご意見のある方いらっしゃいますか。

佐藤委員

先ほどちょっと高校の話が出ましたので、高校入試の志願者数が出てですね、竹田高校が確か107人の募集人員に対して、80人ぐらいだったかな、これもちょっと大変危機的な数字だと思うんですけども、今年から入試の制度が変わって、第1希望で他の高校、第2希望で竹田高校、もしその第1希望に落ちて、第2希望の竹田高校に進む子がいるのはいるんでしょうけど、いろんな多様化とか私学の無償化とかあって、やっぱりそっちの方向に進む方が多いんじゃないかと本当に危惧をしています。

確かに竹田高校は普通科で進学校ではあるんですけども、それ以外で就職だとか専門学校だとか、そういうところにも非常に対応していただいているので、できれば、小学校、中学校のときから、こうこうこんなことをちゃんとしていくんだよっていう発信もしていただけると、非常に進みやすいのかなと。

また私立稲葉学園とかも、本当に特色ある教育をされていますし、スポーツの面についても女子サッカーが、全国制覇した柳ヶ浦に2-1で負けたと、これもほとんど実質、全国2位の實力を持っていると思いますので、こういうところもどんどん発信して行ってですね、市としても、高校の支援をぜひお願いしたいなというふうに思っております。

昨年よりは進む子がちょっと増えているのは増えているんですけど、今日、国公立の前期試験ということで、この結果についても、また、来年の募集に影響してくるのではないかなというふうに思っています。

ぜひ、いい結果を待ちたいというふうに思っております。

志賀教育長

言われた通り、入試制度は変わってきています。昨年11月の県の教育長会議のときも意見を述べましたが、今までだったら、自分はぎりぎりだなあと思っている子は、大分の進学校を選択せずに竹田高校にしていたんじゃないかなと思うんですが、こういうふうになると、今まででしたら突っ込むのがちょっと危ないなあとという子が、思い切って大分方面を希望するんじゃないかと危惧しています。

実際そういうふうなことが竹田市に限らず、県下でも増えているということで、これもまたいろんなところでお会いする他市の教育長と話す中で、第1志望に落ちて、例えば上野、舞鶴を希望していて、叶わなかったら竹田に行きますという子もいるというケースもあると思います。そのようなことは竹田市内

の校長からも聞きますけれども、大半はもしかしたらそのまま東明などの私立高校に行くんじゃないかなと思います。これも他市でも一緒です。

そういった質問をすると、県の高校教育課はそういうことはないと答えますが、これも終わってみないとわかりません。コロコロ制度を変えるわけにもいかないの、見守ってみないとわからないんですけれども、できたら無理してというか、ちょっとリスクはあるけど、他市の高校を第1志望にしている子が、もしものときは地元に戻ってきてくれたらいいなというふうなことは思っています。

また結果を見て意見をしていきたい、要望していきたいと思っています。

後藤総務課長

はい。ありがとうございます。

皆さん発言はよろしいですか。

ではこの計画で進めて参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

進行の役は終わりにになりましたので、事務局にお返しいたします。

廣瀬教育総務課長

はい。ありがとうございます。

それでは、次第の4に進みたいと思います。

4. 報告事項、(1) 番、竹田市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について、学校教育課からお願いいたします。

渡部学校教育課長

はい。それでは簡単にご説明申し上げます。

資料2、冊子の部分があると思いますが、1ページをご覧になってください。

1ページ計画の趣旨、現状ということであります。

2010年以降、教職員の長時間勤務が課題となっており、健康を保ちながら専門性を発揮できる環境整備が急務となっております。

勤務時間の適切な管理や業務の見直し縮減を進めて、チーム学校のもとで共同体制へ転換することが重要であります。

そして、給特法の改正によって計画を策定し、これを通じて教育委員会部局のみならず、市長部局も含めて関係者が連携し、働き方改革を推進する必要がありますことから、この計画を策定しております。

2ページをご覧になってください。現状です。

竹田スクールホリデーや、休日の部活動展開、これを行うことによって少しずつ改善はしてきてはおりますが、中学校では、以前、月45時間超の在校等時間が記録されております割合が高くなっております。

外部人材やICT活用、業務分担の見直しを含めて、教員の教育の資質向上に必要な時間確保を図るため、この計画を作っております。

3ページ目。目標ですが、そこに太枠で記した通りです。

令和12年度までに在校時間を月45時間以下の割合を100%にしていきたいと思っております。1年間における平均の時間も30時間程度に持っていきたいと思っております。

ワークライフバランスの部分については、年間の年休の取得日数を15日以上、現在が14に届かないぐらいですので、全職員をあと1日ちょっと伸ばしていきたいと考えております。最低15日ということです。

ストレス診断の項目の中で、「働きがいのある仕事だ」という項目があります。これを5段階の4以上。

今年が昨日、後期分の結果が来たのですが、3.7でした。前期は3.9ぐらいだったんですけど、やはり後半になると疲れも出てきますので、下がる傾向にあります。4.0というのは高い目標ですが、頑張っていきます。

計画の期間は、令和8年度から12年度、先ほどの長期総合計画と合わせております。

ただ、国の目標は令和11年度を最終年としておりますので、できればそれにそろえて目標は達成していけたらなと思っております。

4ページ目です。5ページの下に青い部分があると思いますが文科省が出している学校と教師の業務の3分類というのがあります。これを踏まえながら、学校の負担軽減を行っていきます。4ページ目にある赤いダイヤ（◆）の項目を挙げているところです。

具体的には登下校の見回り、見守り、夜間の巡回、夜間は、竹楽のときに学校の先生が指導に出ていますが、もうこれもやめていいんじゃないかという思いは持っています。

それと目玉としましては、学校だけで対応しきれない困難な苦情対応、この窓口をぜひ設置をしていきたい、人員も確保していきたいという思いがあります。

また、下の方には、学校に自動採点システムを導入して、活用できないかなということも計画に入れていきます。

最後は、子どもに関わることで、支援が必要な児童生徒の支援は、行政も関わりながら、学校の負担を減らしていくということを計画に上げているところです。

6ページ目です。

学校では、教職員の業務の適正化を図るために、授業時数を、今までは1086時間以上やっただけというところでしたが、今からは、やっても1086時間ですよということで、この中で勝負をしてくださいというふうに変えていきたいと思っております。

ということは、余剰時間がだいぶ出てきますので、それぞれの学校の特色に合わせた運用の仕方ができるんじゃないかなと思っております。

また、先ほどから出ていますデジタルも活用しながら、校務DXを推進して、12年度までに文科省が出しているチェックリストがあるのですが、その項目を下にあるように、教育委員会と学校それぞれ目標を立てて、クリアしていきたいと思っております。

その下には、健康について書いております。ストレスチェック、それと産業医の相談。あと1つは、勤務間のインターバル、これを確保していきたいと思っております。こういう見方が今までありませんでしたので、勤務間のインターバルの確保ということも挙げております。

最後です。7ページです。計画作って終わりではありません。

まずは、教職員の在校等時間を毎年度公表、及び教育委員会定例会及びこの会議で報告をいたします。

それでまた改善点等をご示唆願えればありがたいと思っております。

また学校からは、改善が見られないような学校は聞き取り等を行って、支援を強化して指導する場面も出てくるかなと思っておりますが、何とか持続可能な形を整えていきたいと思っております。以上です。

廣瀬教育総務課長

学校教育課長から、実施計画について報告がありました。
今の報告につきまして、ご質問、ご意見等があれば出していただきたいというふうに思っております。

佐藤委員

すいません。ちょっと質問なんですけども、時間外の管理支援システム、これはティー・コンパスでいいんですかね。これについてちょっと説明お願いしたいんですが。

渡部学校教育課長

はい。ティーコンパス (Te-Comp@ss) は各学校、教職員一人一人のパソコンの中に入っているシステムです。タイムカード等は学校にありませんのでパソコンを立ち上げてこのティー・コンパスを開いた時点で記録されます。帰りに閉じた時点でまた記録されますので、適切な管理ができるということです。

忘れた或いは出張でそのまま直帰した場合には、翌日すぐに入力するように管理職の方が言っております。そして月ごとに管理職が集計して、そこで多い少ないということがあれば、面談等を行って、そこで承認をえられたデータについては教育委員会に上がっていきます。そういう状況です。

廣瀬教育総務課長

よろしいですか。その他の方で、ご質問ご意見等があれば、よろしいでしょうか。

はい。それでは、報告事項(1)番については、質疑がこれ以上ないということで、(2)に進めさせていただきます。

(2)番、竹田市教育保育施設の変更等について、社会福祉課長から説明をお願いします。

羽田野社会福祉課長

それでは社会福祉課から、社会福祉課こども家庭センターに関する報告事項を3点報告いたします。

まず、竹田市の教育保育施設の変更等についてです。資料の3をご覧ください。

まず1つ目がしらゆり幼稚園の閉園についてです。

経過としましては、まず学園の方から園児数減少により、集団での教育が困難となってきたということで、令和8年度末をもってしらゆり幼稚園閉園の意向が伝えられました。

理事会を経て募集停止を行う、まず令和8年度については、新たな募集はしないということ、また令和8年度末での閉園が決定しました。

それに伴いまして、保護者会で説明を行い、こども家庭センターの方で竹田市全域の園児の募集入園パンフレットを作成するんですが、その中で令和8年度募集停止を記載いたしました。

園児数についてですが、4歳児については、令和8年度が5歳児になりますので10名います。ところが、5歳児が卒園した後、3歳児の2名と、満3歳児未満1名ですが、この3名については、新たにほかの園に移動するということになると報告を受けております。

続きまして2番目です。

あさひヶ丘保育園の認可申請についてです。こちらの方は、あさひヶ丘保育園の園長から早い段階で相談がありました。

園児数減少等により経営状況が悪化しており、認可外保育施設として運営を続けることは困難だと伝えられました。

令和6年度から市の単費で認可外保育施設対象の補助金を拡充し、令和7年度からは病児保育事業の実施により、補助金収入が見込まれておりましたが、それでも赤字運営となるという旨が伝えられました。

あさひヶ丘保育園を担当で訪問し、認可保育所として運営する場合の建物基準等について調査したところ、大きな改修なしでも基準を満たしていることを確認できました。認可保育所は、国が定める公定価格によって保育所運営ができるので、現在の状況により認可保育所移行後の方が安定した収入になるということを園と確認し、認可保育所の申請手続きを開始いたしました。

それから提出等を受けて、認可保育所として認可をいただいたところです。

こども家庭センターが集約して募集する入園についても、他の認可保育所と同時期に募集を開始して、全員入園予定ということです。

次のページになりますけれども、今の園児数はこういう状況になっております。このことについて、あさひヶ丘保育園において5歳児保育が可能になるという状況が発生します。

今、竹田地域では4歳児保育までで、5歳児は幼稚園でという流れになっていますが、今後は5歳児保育があさひヶ丘保育園で可能になるということで、あさひヶ丘保育園の入園希望が増えるのではないかとということが懸念されているところですが、これから対応を考えていかなければならない部分です。

それから3つ目が、久住保育所のアンケート結果についてです。

令和7年4月1日に、公私連携型保育所に移行しました。公私連携型保育所に移行後、一定期間、6ヶ月から12ヶ月経過した際に、園の運営に関するアンケートを保護者に向けて実施することとしていたため、6ヶ月を経過した11月にアンケート調査を実施いたしました。

結果については、資料4をご覧ください。

公私連携型保育所に移行した後、保育所の維持管理についてという項目で、聞いております。

保育所はいつも清潔に保たれていると思うかについては、全員がそう思う、とてもそう思うと答えております。

また設備についても、皆さんがとてもそう思う、そう思うと答えております。

保育所の避難訓練等を行っていることを確認したり、園舎、周辺環境について気になることがあるかということも確認しております。

これは園舎建て替えについて、協定の中に明記されていることから、こういったことに関して保護者がどう感じているかということを確認したところになります。

気になることがあると回答した人については、古くて狭いのが気になるということ、それから道が狭い、それから前から出ていますが立地に関しては今でも気になる、日常的な部分もそうですが、大雨や地震の際にはすごく心配になるとありました。野良猫が多いという声もありました。

それから保育所の運營業務についても、皆さんが公平に保育されていると感じているということ、それから安心できるということになっています。1人だけ、そうあまりそう思わないということが書かれておりますが、これを見る限りでは皆さん、保育に関しては満足していただけているという状況にあるように思います。

最後に3ページ目に意見というところがありますけれども、こちらを読むと本当に先生方への感謝の言葉が書かれてあって、これを園側にも伝えたところとても励みになるというふうに喜んでおりました。

こういったことをきちんと、ホームページでも公開しておりますし、今後の、運営にも活かしていきたいと思っているところです。

廣瀬教育総務課長

ただいま、社会福祉課長から（２）番、教育保育施設の変更等についてのご説明がありました。

この件について、質問やご意見等がある方は出していただきたいと思います。それでは吉野委員からお願いします。

吉野委員

久住保育所の運営に関するアンケートについてですが、どの項目もとてもそう思うとそう思うが多くて安心したところですけど、久住保育所に以前から通われていたご家庭の方と、白丹保育所が閉鎖になってから移ってこられた方の間に差があったかどうかとか、その辺は、先生方と社会福祉課の方で何かこう、差があったかなかったかとかそういうことは共有されているのかなということと、要望ですが、まだこれ半年なので、月日を重ねてこれがとてもそう思うが、増えてくれたらいいなというふうに思いました。

羽田野社会福祉課長

はい、お答えします。これは無記名で行われましたので、そのことに関してはちょっと把握ができていない状況です。

ただ反対というか、危険を感じるという意見はこちらの保育所からのものではないかというふうに思われます。

廣瀬教育総務課長

よろしいでしょうか。

その他に、ご質問ご意見等は、よろしいですか。

はい。それでは先に進みたいと思います。

（３）番、竹田市の出生数の推移について、社会福祉課長からご説明をお願いします。

羽田野社会福祉課長

はい。報告の（３）２になります。

竹田市出生数の推移についてですが、５０人を割り込むという数、出生数令和６年度にちょっとショッキングな数の報告があったんですけど令和７年度の見込みとしては、今のところ４８人ということで、また５０人は割り込んでいますけれども、微増ということになる見込みとなっております。

出生数については、教育委員会のときにも学校の児童数生徒数が減っているというのを感じていたんですけど、社会福祉課に異動になって、さらにもっと早いペースで進んでいるというか、もうすぐに子どもたちが利用する教育保育施設で、出生数の減の影響を感じているところです。

先ほどのしらゆり幼稚園の閉園ですとか、あさひヶ丘保育園の認可も少なからず影響があるのではないかという部分ではありますが、その他にも今のままでいいのかという部分については考えていかなければ、もっとこちらの方が早く考えていかなければいけない部分ではないかというふうに思っているところです。こちらについては推移の報告です。以上です。

廣瀬教育総務課長

はい。社会福祉課長から報告がありました。

この件についてご質疑、ご意見等がございましたらお願いします。

進委員

先ほどのところでも思ったのですが、教育長がおっしゃった住みたい街ランキングの部分で、よくテレビ報道とかでも見るんですが、やはり子育てしやすいまちっていうのはランキング上位に上がってくるような気がしています。

それで竹田市は学校数が少ないこともあって、非常に連携がうまくできているんじゃないかなというふうに思うんですね。幼稚園と保育園が連携しているというのはすごく素晴らしいことだと思うので、こういうところを、もうざっくりとしか言えないんですけどどうまく発信していったら、保育園に入るのがポイント制で、希望の保育園に入れないうって話をよく聞いて、通勤に不便なところの保育園にわざわざ行ったりとか、兄弟で違う園になったりとかいうことを聞くので、そういう子育て層をうまく通勤等も含めて、竹田市に呼び込めたらいいのかなあと、子育てしやすいまちっていうのを発信していけたら、若い世代の方も増えていくのかなと感じています。

羽田野社会福祉課長

ありがとうございます。行政の立場から、やはりこの少子化の進行が予想以上に早いということはずごく感じております。

子育てしやすいまちとか住みやすいまちランキングが高い一方で、やはり子育て世帯からの、もっとこうして欲しいであるとかここが不便であるとかっていうネガティブな言葉もよくいただいております。やはりどうしても行政としてそちらに引っ張られてしまう、そこをどう改善していくべきかっていうところを考えるのが先で、良い情報をうまく外に発信するというところに、なかなか考えが及ばないところもあります。

ですので、こういうところもあるのだけど、住んで、ここで子育てするとこんないいことがあるよっていうところの情報も、もっとうまく発信できるように、私たちもちょっと視点を変えてやっていく必要があるのかなと感じております

そこは、これからの竹田市の課題で、もちろんその子育てだけではなくて、移住定住なども頑張っていますので、そういったところにプラスの情報として加えて発信できればと思います。

廣瀬教育総務課長

その他に、この件についてご意見等は、よろしいでしょうか。

(4) 番に進みたいと思います。(4) パパ・ママ会議での要望等について、社会福祉課長からお願いします。

羽田野社会福祉課長

資料5に要望等についてまとめたものを、用意しておりますのでご覧ください。

1月12日に、パパ・ママ会議と子育て教室を同時開催しました。

最初の申し込みが少なく、市長も来てくださる会議ということで、どうなることかと気を揉んだところですが蓋を開けてみれば、親子合わせて98人の参加があって大盛況で非常に盛り上がりました。

要望については、模造紙に、ポストイットで貼っていくという形で出してもらいました。

子育てする上で、竹田市の良いところ、先ほど委員がおっしゃられたように、前向きな面で竹田市のこんなところがいいですよっていうのを挙げてください、それから、子育てをする上でここが不便ということ、ちょっとネガティブな部分になりますけれども、そこを挙げてもらいました。

それから、住みやすいまちはどんなまち、先ほどのランキングに繋がる部分ですけれども、どういうまちを求めているかということの子育て世代のお父さん、お母さん、それから子どもさんで書いてくれる子もいました。

これによりますと、子育てする上で竹田市の良いところは、先ほど吉野委員からもありましたが、自然が豊かで動物と触れ合う機会も多く、伸び伸びと子育てができる場所という声もありましたし、竹田市独自で第一子から保育料を無料にしているところを評価してくださっているということ。

それから広い園庭があるところが多く、伸び伸び遊べる自然がいっぱいあって、いい意味で田舎の温かい人が多い、子育てひろばが充実している、たけのこ広場も広くて楽しいなどの意見もあって、本当に皆さんいいところを感じてくださっているなというふうに思っているところです。

それから子育てするうえでどこが不便かという質問では、こちらも意見をまとめてみたのですが、保育所とか幼稚園に関しては、竹田地域の保育所も年長まで預けさせて欲しい。

これが竹田地域は、2園ある幼稚園に行くという暗黙のルールがあって、5歳児保育をしているところがない状況がずっと続いています。できないわけではないのですが、こういった流れがあって保育無償化のこともあって、保育園ならタダなのにといい声も聞かれました。萩、直入がこども園、久住では保育所という形で、就学前まで行けているのに対し、竹田地域だけ幼稚園に行くのは、なんか不利益をこうむっているという思いを切り口にしていらっしゃるお母さんもいて、幼稚園だとそのあと学童を利用しなければならなくて、学童が利用料で別途また費用が発生して高いということに関しても、苦情を市長に直接言っている方もおりました。

それから習い事に関しては選択肢が少ない。ダンスやプールがあると嬉しいという声もありましたし、遊び場としては屋内で雨の日も遊べる場所が欲しいなど、欲しいを言い出すときりがないんですけど、そんな話ですとか、施設設備で、雨の日のスーパーなどで利用できる屋根付きの駐車場がほしい、それから授乳室が欲しいという意見がありますけれども、今年度の予算でベビーケアルームを市民ホールに設置することになっておりまして、今ちょっと受け付け窓口とかの関係で置いてないんですけども、年度内に設置するようになっております。授乳室とおむつ替えが男性でもできるということで、活用してもらえるのではないかといいように思っております。

それから子育て用品が買えるお店が欲しいという声、医療機関については小児科が土曜日なくなったところもあって、こういった声も聞かれているということ、それから教育機関で高校へ通うことが大変、スクールバスで通いなれた子が高校に変わるときに、大変という声がありました。

また、同じ竹田市内でも子どもにかかる金額が異なる。もともとの校区内の子がスクールバスで通えないのが悪いというふうに言っていたので、それはちょっとまた違うのかなと思ったのですが、要望は言い出せばきりがありませんが、そんな声もありました。

住みやすいまちはどんなまちという質問では、日用品などを買うところで、おむつ替えができるバリアフリートイレや授乳スペースがあって子どもと気軽にお出かけできる場所ということですが、スーパーとか全部は調べてないのですが、大体、おむつ交換等できるようにはなっていて、授乳室があるところは少ないように感じています。

また公園やトイレが綺麗なところとか、給食など地産地消するまち、子ども生活にそろえやすいとか将来が制限されない、学びたいことを学べるまちという声が上がりました。

それから支援者側の声ということで、2月9日に主任保育士及び保育コーディネーターの研修会で出された意見についても、ここで挙げさせていただきました。

保育所から幼稚園または学校に支援が必要と情報を共有した子どもについて、就園・就学先での様子を聞きたいという声がありました。

様子を聞くことで自分たちの未就学時点での支援の振り返りができるが、現在はフィードバックがないため、自分たちの支援が適切だったか振り返ることができないという声がありました。

それから保育所から卒園しても地域で見守りができるとよいという声もありました。以上です。

廣瀬教育総務課長

はい。社会福祉課長から、パパ・ママ会議での要望等について報告がありました。この件についてご意見やご質問等があればお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、ご意見ご質問ないということで、先に進めさせていただきます。

次第の(5)番、その他ということで、全体を通じてご意見等があればお願いします。

よろしいですか。はい。

それでは(6)番の閉会に進みたいと思います。

本日は急遽、市長が出席できないということで、とても残念だったんですけども総務課長に出席をいただきまして、また皆さんの活発なご議論で、大変良い竹田市総合教育会議が開催できたというふうに考えております。

これからも市長部局、それから教育委員会の部局は連携を図りながら、お互いの政策を進めていく、よりよい教育環境を作っていくということで連携して目指していきたいと思います。

本日は、以上をもちまして会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

[閉会時刻:午前10時25分]